

『ウナギのなぞを追って』 塚本勝巳

お話の内容

はじめ

これから説明する話題を、

おおまかにしめしている。

マリアナの海

・ 毎年のようにここにやってくるの

は、ウナギがどんな一生を送る生き物なのかを調査するため。

・ ここが、いつせいにたまごを産む場所。

・ ここです生まれたウナギの赤ちゃんは、海流に流され、しだいに成長しながら、はるばる日本にやって来る。



ウナギの生態は深いなぞに包まれていた
たまごを産む場所がつき止められるまで
に、実に八十年近くの年月がかかった。



『ウナギのなぞを追って』 塚本勝巳

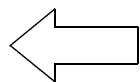
お話の内容

中

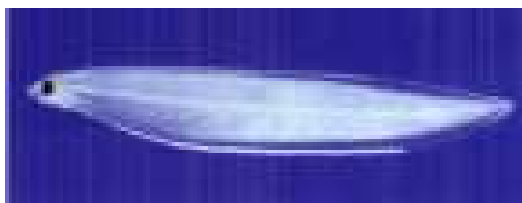
「はじめ」にしまった話題について、具体的な例をあげて、説明している。

たまごを産む場所をさがす調査は、より小さいウナギを追いかけることから始まった。

↓目の細かい大きなあみを使って、海の生き物を集める作業をくり返す。



レプトセファルスとよばれる、ウナギの赤ちゃんをさがす。



『ウナギのなぞを追って』

塚本勝巳

お話の内容

中

①一九六七年

・台湾の近くの海。

・体長五十四メートル。

↓生まれてからだいぶ時間がたっているため、かなりのきよりを海流で流されてきたもの。

②一九七三年

・調査のはんいを南へ、そして東へと広げていった。

↓レプトセファルスの体長は、四十、三十、二十ミリメートルと、しだいに小さくなっていった。



『ウナギのなぞを追って』 塚本勝巳つかもと かつみ

お話の内容はなし ない よう

中なか

③ 一九九一年

・ マリアナ諸島の西、北赤道海流の中。
・ 体長十ミリメートル前後のレプトセ
ファルスを、約千びきとることができた。
・ 体の中には、一日に一本ずつふえる輪
のできる部分がある。
↓ 生後二十日ほどのものだった。

④ 一九九四年

・ 西向きに流れる北赤道海流をさかのぼ
って、東へ行くほど、とれるレプトセ
ファルスは小さくなっていく。
・ **ある地点**をこえると、ぱったりとれ
なくなる。

大きな三つの海山が、南北に連なっている。

↓ たまごを産む場所を決めるときに、こ
れらの海山が何かの役にたっ
ているかもしれない。



『ウナギのなぞを追って』

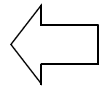
塚本勝巳

お話の内容

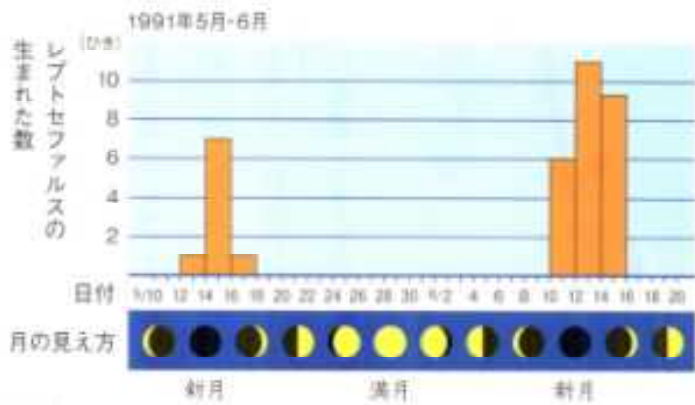
中

④一九九四年

・レプトセファルスの子やう日を先
ほどの輪の数から計算し、こよみと照ら
し合わせた。
↓多くのたんじよう日が、新月の日前後
に集まっていた。



「海山の近く」「新月のころ」という二
つの予想にもとづいて、調査を続けた。

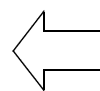


『ウナギのなぞを追って』 塚本勝巳

お話の内容

中

⑤二〇〇五年六月七日 新月の日
・マリアナ諸島の西にある海山付近。
・体長五ミリメートル、生後わずか二日のレプトセファルスを見つけた。
・フロントとよばれる、塩分のこさがことなる海水のさかい目に着目した。
↓生後二十日ほどのものだった。



「新月のころ」「フロントと海山の連なりが交わる地点」と考えて、さらに調査を続けた。



『ウナギのなぞを追って』 塚本勝巳つかもと かつみ

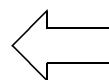
お話の内容はなし ないよう

中なか

⑥二〇〇九年五月二十二日

新月の二日前の明け方

- ・ウナギのたまごが二つとれた。
- ・大きさは、ほんの一・六ミリメートル。



ついに、ウナギがたまごを産む場所にたどり着くことができた。

初めて調査に加わったときから、三十六年の年月が流れていた。



終おわり
全体ぜんたいをまとめている。

ウナギがどこでたまごを産むのかという問題は、ほぼ明らかになった。

↓知りたいことは、まだまだ増えるばかりである。